



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

がんになっても いきいきと!

⑤6 がん検診は大切

イスカッションを行いました。

肺がん、乳がん患者のお二人は、それぞれ7年前、13年前に検診で発見され、つらかったけれど、早く発見できたのでよく治ったとお話してくださいました。企業が補助してくれるドックは受けやすい。でも、自営の場合には自分からは受けにくい。せつかく申し込むうとしても時間が合わなかったりすると諦めてしまふ。友人や誰かに後押ししてもらおうと受けやすい。変わらぬ日常生活で検診をどう受けるのが大切な問題です。

さて先週末は県民文化会館小ホールで、和歌山東南ロータリークラブ主催、県地域・ひと・まちづくり補助事業のチャリティーコンサートでした。私が司会で、県立医大の呼吸器腫瘍内科の山本信之教授と和歌山市の永井尚子保健所長、いきいき和歌山がんサポートのピアサポーターの方々とがん検診啓発のパネルデ

の日本のトップである山本教授は、和歌山の肺がんの状況をお話してくださいました。和歌山の肺がん死亡は日本でメタル級(1-3位)と悪かったのですが、山本教授が赴任してから10位以下に低下。早期発見には検診の精度管理が重要で、4万人規模の肺がん検診の精度管理の世界的な研究を、和歌山市と県立医大の協力で始めた。和歌山でこのような先端の研究をしていただくのは心強いことですね。

コンサートは、ピアノとヴォーカルのコンサート。感動しました! 出口で演奏家の皆さんが募金活動をしてくださいました。たくさんの方々から募金箱に温かいお気持ちも寄せられました。

神戸大学付属国際がん医療・研究センター(ICCRC)で、私が主になってトリプルネガティブ乳がん(TNBC)の臨床試験を開始します。研究費の不足による中断が起らないように募金を始めています。TNB

Cは若い方に多く、抗がん剤が効かない場合には難治性。なんとか治る人が増えるような治療を開発したいです。

全国の患者会である「ふくろうの会」のホームページでは、企業の協力を求める署名活動を、またICCRC乳腺外科のホームページでは、寄付の案内を始めています。詳しくは、「ふくろうの会」「ICCRC乳腺外科」のホームページをご覧ください。よろしく願いいたします。

永井先生は県や市の取り組みを紹介してくださいました。検診啓発ボランティアの方が知り合いの方に検診を勧め、啓発活動の協力企業の職員は、家族、知り合いに検診を勧めるような活動をしてくださっているというお話でした。知り合いからの勧めは大きいと思います。

また、肺がん領域